

## 天敵製剤を利用した施設トマトのオンシツコナジラミ防除

天敵製剤（オンシツツヤコバチ剤）の利用により、多発時においても果実等にススが生じない程度にオンシツコナジラミの発生を抑えた。

天敵製剤の使用開始時期は、黄色粘着板におけるオンシツコナジラミの成虫捕殺数が1週間で10頭程度が良いと考えられた。

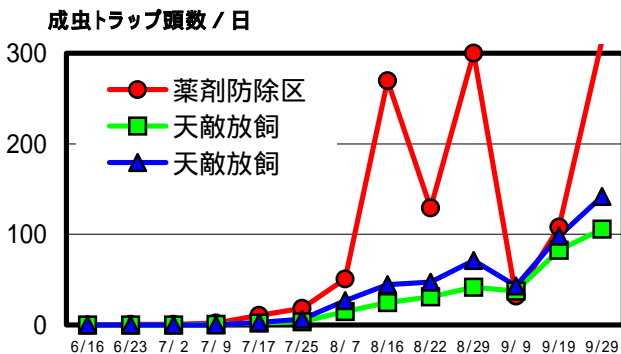


図1 オンシツコナジラミ成虫の発生推移(1997)

薬剤防除区：殺虫剤 8/12、8/25、8/31  
 天敵放飼：7/2、7/9、7/17、7/25  
 開始時の成虫密度：0.3頭/日  
 天敵放飼：8/7、8/16、8/22、8/29  
 開始時の成虫密度：27頭/日  
 (処理量：1カード/25株)  
 9月に薬剤防除区はスス病が多発した。



写真1 コナジラミ観察用の黄色粘着板



写真2 オンシツコナジラミの蛹  
 白色は正常、黒色は天敵が寄生。

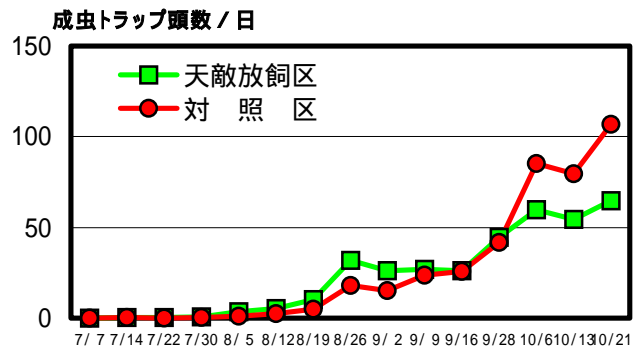


図2 オンシツコナジラミ成虫の発生推移(1999)

天敵放飼区：7/22、7/30、8/5、8/12  
 開始時の成虫密度：0.3頭/日  
 (処理量：1カード/26株)  
 コナジラミの発生は対照区でも少なかった。

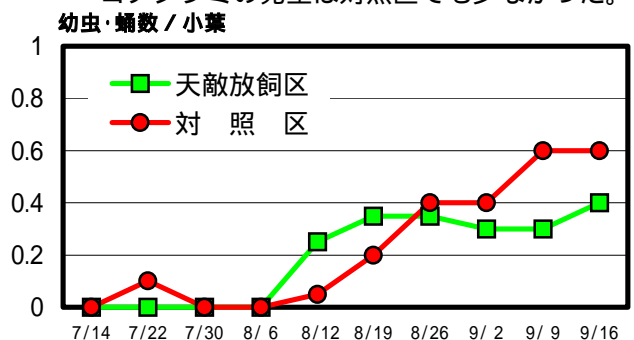


図3 オンシツコナジラミ幼虫・蛹発生推移(1999)

上位葉において天敵処理区での幼虫・蛹の発生は対照区に比べ少なかった。

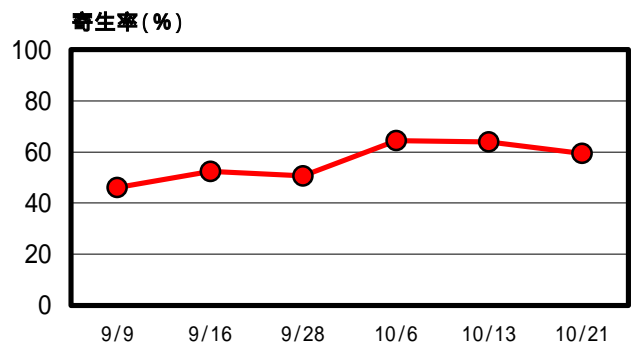


図4 オンシツツヤコバチ寄生率の推移(1999)

寄生率(黒色蛹/全蛹×100)は、調査時点ではそれぞれ約60%で推移したが、実際の寄生率はさらに高いと考えられた。